

医学教育分野別評価

名古屋市立大学医学部医学科 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2019(令和元)年

令和 5 年 8 月



名古屋市立大学

医学教育分野別評価 名古屋市立大学医学部医学科 年次報告書
2023 年度

評価受信年度 2019(令和元)年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準 Ver.2.36

1. 使命と学修成果

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)学修成果と教育プログラムの進行・到達水準に整合性を持たせるべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時コンピテンシーを達成するため卒業時コンピテンシー・マイルストーンワーキングでマイルストーン(2022 年度版)を作成した。 ・教育 PDCA を実装するための組織としてカリキュラム評価小委員会を新たに立ち上げ、事業の一つとしてカリキュラム上の「学修目標」とマイルストーンとの確認を行った。その結果、マイルストーンでは示されるものの該当する教育が十分行われていない項目が明らかになった。 ・モデルコアカリキュラム対応コアチームを立ち上げ、不足する教育を補うための対策を協議し、現状のカリキュラムを維持し空コマを活用する形で体系的教育を構築する案を作成した。具体的なコース名は「医師になる道」、「医療者としての話し方・聴き方」、「セルフマネージメントとアンガーコントロール」、「情報と科学技術のリテラシーとエシカル」、「NCUdays」、「生活者の視点でみる医療」。それぞれのコースとコアコンピテンシーとの関連性をマトリックスで示した。 ・教授会に提出し 2024 年からの導入について承認を得た。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度から資料 4 に示す授業を開始する方向性で準備をすすめている。 ・2025 年入学者からはマイルストーンに沿って新たなカリキュラムを構築する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 【2022 年度版】名市大マイルストーン Ver1.1 ・資料 2 名市大マイルストーン 教育内容チェック ・資料 3-1~3-3 分野別評価・モデルコアカリキュラム対応コアチームミーティング議事録①~③ ・資料 4 6 年間一貫教育資料 1 ver2 ・資料 5 教授会議事録(2022 第 15 回) 	

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	

(2)学修成果に地域医療からの要請、医療制度からの要請を明確に含めるべきである。
改善状況
・地域住民からの医学教育に対する要望を把握するため、新型コロナウイルス感染がやや落ち着いた令和 5 年 1 月にカリキュラム企画・運営委員会のメンバーが瑞穂区内のコミュニティーセンタ(豊岡学区、陽明学区)と鳴子コミュニティー教育センター、瑞穂区役所福祉課を訪問して住民代表、瑞穂区福祉課長と意見交換を行った。 ・「CHC 応用」で地域訪問型実習を再開することとなった。
今後の計画
医薬看連携地域教育参加型学習において学生とともに教員も様々な施設を訪問していることから、継続的なニーズ収集に繋げていく方向性である。
改善状況を示す根拠資料
・資料 6 瑞穂区役所訪問議事録 ・資料 7 令和5年度「医療系学生チーム訪問実習」の実施について(依頼)

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(3)学生の行動規範などを整備し、学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを、より確実に習得させるべきである。	
改善状況	
・スチューデントドクターに対して「アンプロフェッショナルな行動・態度がみられた学生の評価と対応」を示した(2021年12月) ・2023年1月以降の進級オリエンテーションにおいて「学修目標には知識・技能だけでなく態度も含まれること、医師になるうえで著しい問題がある場合には原級留置等の対応となることもありえること」を口頭で述べる対応を行った。	
今後の計画	
・低学年のアンプロ行動についてカリキュラム企画・運営会議で議論を行った。今後低学年向けの行動規範の作成を検討していく。 ・他学の取り組みを参考とし、早期発見と介入、指導内容の記録蓄積のための制度設計についても協議を行った。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 8-1 臨床実習の手引き(2021.12.10 版、改) ・資料 8-2 別途資料 ・資料 9 令和4年度 第 12 回カリキュラム企画・運営委員会 議事録 一部抜粋	

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準:部分的適合	

改善のための助言
(4)学修成果を教職員・学生に対してより確実に周知すべきである。
改善状況
FDで本学の卒業時コンピテンシーとそれに到達するためのマイルストーンについて説明した。
今後の計画
学生への周知を進めるためシラバスに提示する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 10 教員 FD ①10月12日マイルストーンの説明

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果をより明確に関連付けることが望まれる。	
改善状況	
「2022 年度版卒業時コンピテンシー・マイルストーン」では“研修終了時に到達すべきコンピテンシー”を併記する形で作成した。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 1 【2022 年度版】名市大マイルストーン Ver1.1	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
ディプロマ・ポリシーのみならず、使命や卒業時コンピテンシーの策定についても学生や職員などの教育に関わる主要な構成者が参加すべきである。	
改善状況	
卒業時コンピテンシー・マイルストーン委員会は基礎・臨床教員の他、教育学をご専門とする名古屋市立大学高等教育院山田勉先生にもご参画頂いた。	
今後の計画	
使命・ディプロマ・ポリシーを定期的に見直す仕組みについて検討を行っている。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 11 令和4年度 第7回カリキュラム企画・運営委員会 議事録	
・資料 12 カリキュラム委員会・各小委員会 名簿・連絡先	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
-------------------	------------------------

質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
学修成果について広い範囲の教育関係者から意見を聴取し、議論することで反映することが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム評価小委員会、カリキュラム評価委員会の構成員として学生、名古屋市保健局からの参加を加えた。	
今後の計画	
カリキュラム評価委員会の構成メンバーに名古屋市保健局からの参加を加えた。2024 年度は学部長、理事にも参加頂けるように働きかけていく。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 13 6-19. カリキュラム評価委員会・小委員会委員について（令和 4 年度第 15 回教授会資料）	

2.教育プログラム

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準:適合	
改善のための助言	
能動的学修は、その方法と学修成果を検証し、学生が自分の学修過程に責任がもてる方法をより多く採用すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習において学生の学修目標を明確にして学習意欲を高めるため指差し評価表と進捗を示すカードを導入した。 ・学生がフィードバックを得る意識の醸成、ふり返りの実践、に効果があることを示した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習で振り返りを促す取り組みは継続する予定である。 ・能動的学修を促す取り組みとして BRJ 活動の発展を行っていく。 ・学生が独自にプログラムを開発する 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 14 臨床実習ニューズレターVol.2 ・資料 15 2023 年 1 月 29 日臨床実習小委員会資料 指差し評価表報告 ・資料 16 指差し評価表と効果 	

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
学生がキャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有することができるよう、能動的学修をさらに取り入れたカリキュラムを設定することが期待される。	

改善状況
医学・医療教育学の高桑教授が中心となり、学生自身が教育プログラムを開発・運営する「PICo プロジェクト」を展開している。2022年は71名(医学部33名、看護学部19名、薬学部3名、高校生16名)が参加した。学生の内発的動機付けによる自律的な学修を促す教育効果が確認された
今後の計画
PICo プロジェクトを組織的な活動として継続するため、「医療人連携・育成センター(仮)」での支援の方向性で調整している。
改善状況を示す根拠資料
・資料17 医学教育第54巻捕冊 令和5年P170

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)全学生に医学研究の手法を確実に学ばせるために、「基礎自主研修」の継続的改善を行うべきである。	
改善状況	
カリキュラム評価小委員会で議論し、基礎自主研修で達成すべきアウトカムを規定することが必要と判断した。基礎教授会にその旨を提案した。	
今後の計画	
2023年度から基礎自主研修の学修目標と方略・評価に対するブループリントを作成し、ルーブリックを中心とした形成的評価・総括的評価の仕組みを構築、実装することとなった。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料18 2023年1月基礎教授会資料 基礎自主研修の持続的改善	

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)EBM教育は各科目の個々の題材とその担当教員にゆだねるだけでなく、体系的なカリキュラムを構築し行うべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年からの6年一貫型教育「医師になる道」のStep1で「科学的根拠に基づいた医療を行うことが患者さん個々に合った医療の選択に繋がることを理解する」を学修目標に挙げて開発することとなった。 ・EBMのステップ4,5を目標とした教育をスチューデントドクターズデイの中で実施した。 	
今後の計画	
2025年からのカリキュラム改訂では各コースで独立的に実施しているEBM教育を統合し新たなコースとして立ち上げる方向性で議論を開始している。	

改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 19 スチューデントドクターズデイ 日程と支援医療者 ・資料 20 SDD 4月7日 EBM を理解する

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(3)臨床実習でEBMを十分に活用すべきである。	
改善状況	
EBM のステップ 4, 5 を目標とした教育をスチューデントドクターズデイの中で実施した。	
今後の計画	
2025 年からのカリキュラム改訂では行動科学の教育を整理し、新たなコースとして配置する方向性で議論を開始している。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 19 スチューデントドクターズデイ 日程と支援医療者 ・資料 20 SDD 4月7日 EBM を理解する 	

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準:適合	
改善のための助言	
社会と医療ニーズの変化に対して 6 年間一貫医学教育カリキュラムを検討し、その検討結果を基礎医学教育に活かすことが望まれる。	
改善状況	
2023 年度はマイルストーンと教育内容の突合を行い、新たな 6 年一貫型教育を構築した。	
今後の計画	
2023 年に取り組んだ一貫型教育には基礎医学に関する具体的な改善は含まれていない。2025 年開始の新カリキュラムにむけては基礎自主研修までの学びをより体系的に、基礎研究に向けた能力向上とリサーチマイノリティの醸成につなげるため、新たなカリキュラム構築を検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 【2022 年度版】名市大マイルストーン Ver1.1 ・資料 2 名市大マイルストーン 教育内容チェック ・資料 3-1～3-3 分野別評価・モデルコアカリキュラム対応コアチームミーティング議事録①～③ ・資料 4 6 年間一貫教育資料 1 ver2 	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)行動科学のカリキュラムについて、統一感をもって系統的に構成し、学生が理解しやすいように実践すべきである。	
改善状況	
社会医学コースについて学年横断的なプログラムを開発する議論を行った。	
今後の計画	
2025 年からのカリキュラム改訂では各コースで独立的に実施している EBM 教育を統合し新たなコースとして立ち上げる方向性で議論を開始している。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 21 2022 年 8 月 18 日行動医学カリキュラム ミーティング	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)医療社会学等の内容をカリキュラム上に明示し、教育を実践すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改革ワーキングチームを立ち上げ 2025 年入学者から新しいカリキュラムを構築する議論を開始した。 ・卒業予定者アンケートの結果から、社会医学に関連する卒業時アウトカムに対する学生の自己評価が低いことを確認し、社会医学教育の改善が必要であることを確認した。 	
今後の計画	
具体的な方向性として、現在 4 年生で行っている「社会医学コース」を 2 年生と 4 年生に分けて実施することとし、段階的な教育により卒業時アウトカムの達成を目指すこととなった。(2023 年 7 月に教授会で承認)	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 22 第 1 回カリキュラム改革 WG 議事録 ・資料 23 卒業予定者アンケート-自己評価グラフ 	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(3)学修成果に記載されている国際保健関連の内容をカリキュラム上に明示し、教育を実践すべきである。	
改善状況	
・医学教育・社会医学講座 教員会議において FD を行った。(7 月 16 日)	

・医学教育・社会医学講座 教員会議において教育改善の方向性について協議した。(2023年1月17日)
今後の計画
上記の新しい社会医学教育コースの中で導入を目指していく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 24 FD 第172回医学教育・社会医学講座教員会議
・資料 25 第177回医学教育・社会医学講座教員会議事録 2023年1月17日

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
社会と医療ニーズの変化に対して6年一貫医学教育カリキュラムを検討し、その検討結果を行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学の教育に活かすことが望まれる。	
改善状況	
・医学教育・社会医学講座 教員会議においてFDを行った(7月16日)	
・医学教育・社会医学講座 教員会議において教育改善の方向性について協議した(2023年1月17日)	
今後の計画	
上記の新しい社会医学教育コースの中で導入を目指していく。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 24 FD 第172回医学教育・社会医学講座教員会議	
・資料 25 第177回医学教育・社会医学講座教員会議事録 2023年1月17日	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)重要な診療科で学生が医療チームの一員として参加する診療参加型臨床実習を十分な期間行うべきである。	
改善状況	
・参加型臨床実習への意識向上のため臨床実習オリエンテーションの見直しを行った。具体的には、受け持ち患者訪問のロールプレイを実習、スチューデントドクターとしての心構えのグループワークを導入した。	
・学生アンケートによる調査で医行為の実施率が低いことが判明した。対応として診療科の実習を横断する形で「スチューデントドクターズデイ」を配置し、附属病院看護師による手技指導を行うこととした。	
・カリキュラム評価小委員会の取り組みとして、各診療科の臨床実習について「診療参加度を示す指標を見える化」し、教授会などで定期的に提示することとした。	
・参加型実習を推進するための取り組みとして、2024年1月からの臨床実習ではCC-1とCC-2に区分し、CC-2では主たる診療科で確実にCCが実施できる体制とすることとした。	
今後の計画	

2024 年からは主たる診療科の臨床実習を 4 週間行う体制となる。この実習で「チームの一員としての参加」を実装するために、FD と診療参加度を示す指標の提示、などの対応を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 26 臨床実習前オリエンテーションスケジュール
- ・資料 27 名市大臨床実習 News Letter Vol.1
- ・資料 28 基本臨床手技の経験
- ・資料 29 11 月 22 日教授会資料:臨床実習
 - ①スチューデントドクターズデイへの診療科支援のお願い ②2024 年からの新しいスケジュール案
- ・資料 19 スチューデントドクターズデイ 日程と支援医療者
- ・資料 30 臨床実習ニュースレターVol. 4
- ・資料 31 臨床実習ニュースレターVol. 5
- ・資料 32 臨床実習ニュースレターVol. 6
- ・資料 33 2022 年度 M5M6 学生による診療科評価結果(カリキュラム評価委員会資料)
- ・資料 34 2022 年 12 月 27 日教授会資料 2024 年からの臨床実習改革

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)大学病院と学外病院の連携を図り、診療参加型臨床実習に必要な疾患を経験できるプログラムを構築すべきである。	
改善状況	
<p>・2021 年から東部・西部医療センターが附属病院化されており学外臨床実習施設として中心的な働きを担っている。2022 年 11 月と 2023 年 2 月にそれぞれの医局会の中で臨床実習について FD を行った。</p> <p>・2023 年 1 月、2 月の 3 附属病院運営会議で新しいモデルコアカリキュラムで求められる臨床実習と管理体制について説明した</p>	
今後の計画	
臨床実習統括部門を立ち上げ 2023 年 4 月に初回の連絡調整会議を実施する。2024 年 1 月からの稼働にむけて準備中である。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 35 2022 年 11 月東部西部医療センターFD 資料 ・資料 36 東部医療センターFD 2022 年 11 月 16 日 記録 ・資料 37 西部医療センターFD 2022 年 11 月 25 日 記録 ・資料 38 2023 年 1 月 10 日 3 病院運営会議資料:臨床実習に関する動向と説明会実施のお願い ・資料 39 2023 年 2 月 3 病院運営会議 臨床実習統括部門の設置について 	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(3)プライマリ・ケア実習の期間を十分に確保し、実質化すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリ・ケア実習がどのように実施されているか確認した。プライマリ・ケア実習の期間は学生一人当たり連続 2 日間であった。訪問診療に同行する機会などは総合内科の臨床実習の中で確保されていたがコロナ禍で実施できなくなっていた。 ・プライマリ・ケア実習の見直しについて 11/7 の臨床実習小委員会で議論を行い、2024 年からの臨床実習では改善すべく総合診療科教授着任後急ぎ対応することとなった。 	
今後の計画	
2023 年 8 月 1 日付で総合診療科・総合内科に宮崎景教授が着任され、具体的な対応策の検討を開始している。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 40 11 月 7 日臨床実習小委員会資料 プライマリ・ケア実習の改善について	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(4)臨床実習で健康増進と予防医学の体験を十分に確保すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育・社会医学講座 教員会議において FD を行った。(7 月 16 日) ・医学教育・社会医学講座 教員会議において教育改善の方向性について協議した。(2023 年 1 月 17 日) ・行動医学の教育体制を改善する協議を開始した。 ・カリキュラム改革 WG で社会医学コースの見直しが必要なことを確認した。 	
今後の計画	
上記のように社会学コースをより体系的に見直す議論が開始されている。臨床実習では健康増進と予防医学の体験の機会が確保できるように協議を続けていく。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 21 2022 年 8 月 18 日行動医学カリキュラム ミーティング ・資料 22 第 1 回カリキュラム改革 WG 議事録 ・資料 24 FD 第 172 回医学教育・社会医学講座教員会議 ・資料 25 第 177 回医学教育・社会医学講座教員会議事録 2023 年 1 月 17 日 	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準:部分的適合	

改善のための助言
(1)臨床実習開始前に患者接触プログラムや臨床技能教育を体系的に行い、臨床実習の準備教育を拡充することが望まれる。
改善状況
<ul style="list-style-type: none"> ・2025年の入学者からはカリキュラム改変を行う予定である。現役学生に対する対応として、2023年には「CHC 応用」の中で地域高齢者へのインタビューの機会を設けた。 ・現役学生に対する対応として、2023年からスチューデントドクターズデイを導入しシミュレーターによるトレーニング教育を行う体制とした。 ・2024年からは3年次、1年次に患者接触プログラムを設定する方向性で協議を行っている。
今後の計画
<p>2024年3年次は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年からの導入する6年一貫型教育(資料)「医師になる道」Step2では3年次学生が附属病院を訪問し、入院患者から「パシエントジャーニー」についてインタビューする機会を設ける予定である。4 附属病院に協力を依頼し了解を得た。 ・2022年12月に実施した臨床実習前オリエンテーションでは血圧測定と患者訪問についての模擬的トレーニングを行った。スチューデントドクターズデイの中で計画的に手技のトレーニングを行っていく。
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 6 瑞穂区役所訪問議事録 ・資料 7 令和5年度「医療系学生チーム訪問実習」の実施について(依頼) ・資料 29 11月22日教授会資料:臨床実習 <ul style="list-style-type: none"> ①スチューデントドクターズデイへの診療科支援のお願い ②2024年からの新しいスケジュール案

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)社会と医療ニーズの変化に対して6年一貫医学教育カリキュラムを検討し、その検討結果を臨床医学教育に活かすことが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバー会議を行い改訂モデルコアカリキュラムに対応する6年一貫型カリキュラムについて議論を行った。2024年から実施可能な形を調整しカリキュラムを開発した。 ・臨床実習において基本的な資質・能力の教育をカバーするため、診療科の臨床実習の枠を越えたスチューデントドクターズデイを2023年1月の実習から新たに配置した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・2025年入学者からは臨床医学コースに病理学各論や生化学などの基礎医学をスパイラル的に統合する方向性カリキュラム開発に取り組んでいる。 ・スチューデントドクターズでは2024年からの臨床実習でも継続していく。 	
改善状況を示す根拠資料	

<ul style="list-style-type: none"> ・資料 4 6年間一貫教育資料 1 ver2 ・資料 29 11月22日教授会資料:臨床実習 ①スチューデントドクターズデイへの診療科支援のお願い ②2024年からの新しいスケジュール案 ・資料 19 スチューデントドクターズデイ 日程と支援医療者

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
科目間の水平的および垂直的統合をさらに充実させることが期待される。	
改善状況	
2025年入学者からの新しいカリキュラムについてカリキュラム改革ワーキンググループでの検討を開始した。その中で統合的教育の更なる推進を進める方向性を確認した。新しいカリキュラムでは現状の水平統合科目の教育的効果を検討し、実効性のある統合教育を目指していく方針である。	
今後の計画	
カリキュラム改革WGでは2023年7月に提言をまとめ、統合科目についても病理学の各論を臨床講義と併行的に実施するなど具体的な方策の検討に入っている。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 22 第1回カリキュラム改革WG議事録	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム企画運営委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが期待される。	
改善状況	
2021年から附属病院となった東部・西部医療センターからの参加頂いており継続している。	
今後の計画	
学生の参画をより実態をもったものにするため、2023年からは会議の大部分に学生が参加し各議案の議論で積極的に意見を求める形に変更している。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 12 カリキュラム委員会・各小委員会_名簿・連絡先	

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準:適合	
改善のための助言	

医療人育成推進センターなどによる、卒前教育と卒後の教育・臨床実践の間の連携推進をさらに図るべきである。
改善状況
スチューデントドクターズデイで附属病院の看護師、薬剤師が手技指導やグループ学修のファシリテーターとして参加する仕組みを構築した。
今後の計画
卒前・卒後の教育連携をより具体的に推進するため新しい組織構築を計画している。医学部内に卒前臨床実習を担当する「医学教育センター」を立ち上げ、将来的には卒後研修を担う「総合研修センター」との統合も見据えて検討していく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 29 11月22日教授会資料：臨床実習 ①スチューデントドクターズデイへの診療科支援のお願い ②2024年からの新しいスケジュール案

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム企画・運営委員会における教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが期待される。	
改善状況	
カリキュラム改善に向けた示唆をえるために瑞穂区内のコミュニティーセンター（豊岡学区、陽明学区）と鳴子コミュニティー教育センターを訪問し住民代表と意見交換を行った。	
今後の計画	
2023年7月には名古屋市民生委員児童委員連盟瑞穂区支部会議に出席し、民生委員会から今後の医学生教育に対する意見を得た。また2024年についても医学生と地域高齢者が交流する企画を継続することについて承認された。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 6 瑞穂区役所訪問議事録 ・資料 7 令和5年度「医療系学生チーム訪問実習」の実施について（依頼）	

3. 学生の評価

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
(1)技能および態度の評価について評価方法とその有用性を検討し実施すべきである。	
改善状況	
・臨床実習の評価について指差し評価表を導入した。指導医がその場で評価を行い学生にフィードバックし、そ	

<p>れを学生が振り返りとともに記録に残す。内容について学生、実習責任者が共有できる仕組みを開発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンプロ報告がなされた学生に対して組織的に対応するため対応フローを策定した。態度評価に関しても数多くの評価を蓄積し、多角的に評価するため、指導医・患者による評価ルーブリックを開発した。
<p>今後の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・策定したフローと評価表を活用した取り組みを試行している。複数人の学生に適応し、再教育により具体的な態度改善につながった例も経験できた。 ・低学年生の将来アンプロに繋がりを学生をピックアップし、改善に繋げていく取り組みを検討している。
<p>改善状況を示す根拠資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 15 2023 年 1 月 29 日臨床実習小委員会資料 指差し評価表報告 ・資料 41 態度評価ルーブリック 患者さん用 ・資料 42 態度評価ルーブリック 指導医用 ・資料 9 令和4年度 第 12 回カリキュラム企画・運営委員会 議事録

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)評価に関わる利益相反を規定として明文化すべきである。	
改善状況	
評価者が利益相反に影響しないことについて明確にする必要がある旨、議論を開始した。	
今後の計画	
2024 年度シラバスには反映させるべき検討を行っている。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 43 2023 年 2 月 20 日 令和 4 年度第 12 回カリ委員会議事録	

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(3)学内で行われる評価を出題者以外の教員によって精査する仕組みを構築すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学修目標・方略・評価の整合性について FD を行った。 ・カリキュラム評価小委員会の取り組みとして、各コース・ユニットの教育目標と方略、評価方法の自己点検を行った。得られた回答に対して適切な教育目標の設定や目標に対する方略・評価方法について委員会として助言を作成しフィードバックをした。 	
今後の計画	
シラバス自己点検の取り組みは継続していく。さらに臨床医学コースにも拡大を目指す。	
改善状況を示す根拠資料	

<ul style="list-style-type: none"> ・資料 44 2022 年 10 月 19 日 FD③ ・資料 45 シラバス自己点検 ・資料 46 2023 年 2 月カリキュラム企画運営委員会資料 1-1 シラバス自己点検 フィードバック ・資料 47 2023 年 2 月 カリキュラム企画運営委員会資料 1-2 シラバス自己点検フィードバック:補足スライド

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(4)評価結果に対する疑義申し立て制度を組織として対応する仕組みを構築すべきである。	
改善状況	
疑義申し立て制度に対する組織対応についての議論を開始し、学生と授業担当教員間のやり取りに留まっている状況の改善に取り組むこととなった。	
今後の計画	
成績に関する疑義申し立てに対してカリキュラム企画・運営委員会でもその内容を把握し、必要時に介入ができるような対応フローを作成している。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 48 成績疑問票について	

3 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)学内で行われるすべての評価に関して評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。	
改善状況	
3-1(3)と同じ	
<ul style="list-style-type: none"> ・学修目標・方略・評価の整合性について FD を行った ・カリキュラム評価小委員会の取り組みとして、各コース・ユニットの教育目標と方略、評価方法の自己点検を行った。得られた回答に対して適切な教育目標の設定や目標に対する方略・評価方法について委員会として助言を作成しフィードバックをした。 	
今後の計画	
「教育目標と方略、評価方法の自己点検」は 2023 年度も継続して行い、教育目標に沿った評価が行われていることを確認するとともに、担当教員の意識醸成を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 44 2022 年 10 月 19 日 FD③ ・資料 45 シラバス自己点検 ・資料 46 2023 年 2 月カリキュラム企画運営委員会資料 1-1 シラバス自己点検 フィードバック 	

・資料 47 2023 年 2 月 カリキュラム企画運営委員会資料 1-2 シラバス自己点検フィードバック:補足スライド

3 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)Mini-CEXなどを利用して診療参加型臨床実習の評価を確実に行うことが望まれる。	
改善状況	
・学生や教員を対象としたアンケート、フォーカスグループ調査、CC-EPOC の登録状況を調査した。Mini-CEX を含めた観察評価の充実が必要であるが、直ちに理想的な評価の実現は難しいと考えられた。段階的に実効的な改善を得ていく、フィードバックと学生の振り返り、評価の蓄積にフォーカスした評価方法として指差し評価表と Microsoft Forms での登録システムを導入した。 ・診療参加型実習の推進には指導医、学生の意識を高める必要があると考えた。新たに「臨床実習ニュースレター」を発行し広報も含めて意識を高めていく取り組みを開始した。	
今後の計画	
Microsoft Forms での登録システムの動向を継続的に確認すると徐々に登録率が低下していることが判明した。2024 年度からは継続性を意識したシステム改善を行う予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 16 指差し評価表と効果 ・資料 14 臨床実習ニュースレターVol.2 ・資料 49 臨床実習ニュースレターVol.3 ・資料 30 臨床実習ニュースレターVol.4	

3 学生の評価	3.2 評価と学生との関連
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)低学年から臨床実習に至る各学年において学修成果を確実に評価していることを示すべきである。	
改善状況	
卒業時コンピテンシーを達成するためのマイルストーンを作成し、カリキュラム上の学修目標とマイルストーンとの確認を行った。その結果、マイルストーンでは示されるものの該当する教育が十分行われていない項目が明らかになった。	
今後の計画	
・前述のように 2024 年からは現状のカリキュラムを維持した形で新しい教育を導入することとした。具体的には 1 年次後期に「医師になる道」を導入し、マイルストーンレベルAで不足する学修目標をカバーする。 ・改訂モデルコアカリキュラムに対応したマイルストーンの改定を行い、2025 年入学者からの新カリキュラムを構築する予定である。	

改善状況を示す根拠資料
・資料 2 各市大マイルストーン 教育内容チェック

3 学生の評価	3.2 評価と学生との関連
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)形成的評価を確実に言い、学生の学修を促進すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・FD で形成的評価の重要性について解説を行った。 ・カリキュラム評価小委員会の事業として、基礎医学・基礎臨床医学のコース・ユニットごとに形成的評価とそのフィードバックが行われているか自己点検を実施した。 	
今後の計画	
2022 年度は調査段階にとどまった。形成的評価についての調査結果に対するフィードバックを行う予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 50 2022 年 10 月 26 日 FD ④ ・資料 46 2023 年 2 月カリキュラム企画運営委員会資料 1-1 シラバス自己点検 フィードバック 	

3 学生の評価	3.2 評価と学生との関連
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックをより拡充することが望まれる。	
改善状況	
臨床実習においては指差し評価表と Microsoft Forms によるシステムを構築しフィードバックを促進する取り組みを導入した。導入後のアンケートでは、指導医側にフィードバックの意識が高まる効果が感じられた。	
今後の計画	
3-2(2)と同様に低学年の教育における形成的評価の意識向上が必要となる。総括的評価での合否判定だけでなく、教員側が学修目標の達成意識を持ち、形成的評価の目的を理解する必要がある。2023 年は定時的に実施するシラバス自己点検を活用して形成的評価に対する FD とフィードバックを行う予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 15 2023 年 1 月 29 日臨床実習小委員会資料 指差し評価表報告 ・資料 16 指差し評価表と効果 	

4. 学生

4 学生	4.1 入学方針と入学選抜
基本的水準:適合	
改善のための助言	
身体に不自由がある学生の入学後の修学支援について、方針を定めるべきである。	
改善状況	
「公立大学法人名古屋市立大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領」で方針が定められている。本部に情報があつまり各学部にも周知される仕組みであることを確認した。	
今後の計画	
上記の方針に沿って対応していく。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 51 公立大学法人名古屋市立大学における障害を理由とする差別の解消の推進	

4 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準:適合	
改善のための助言	
入学決定に対する疑義申し立て制度について、成績を開示するのみでなく、疑義に対応する窓口を明示することが望まれる。	
改善状況	
本学医学部はそもそも疑義が生じ得ない入試制度だが、現在も募集要項に記載のあるとおり、入試一般に関する問い合わせの窓口は学生課入試係として明記していることを確認した。	
今後の計画	
上記の方針に沿って対応していく。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 52 令和3(2021)年度 第11回 医学部入試研究委員会議事録	

4 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
精神面を含め、学生の健康上の支援について、桜山キャンパスにおける体制を整備すべきである。	
改善状況	
医学部、看護学部は桜山キャンパスで学んでおり、看護学部と合同で学生の健康を支援できる体制を整備する必要があると考えている。医学研究科長と課題を共有し対応を検討している。	
今後の計画	
重要課題と位置づけ、桜山キャンパスでメンタル面を含めた支援体制を構築できるように引き続き関連部署に	

働きかけていく。
改善状況を示す根拠資料
なし

4 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準:適合	
改善のための助言	
キャリアガイダンスやプランニングを適切な時期に行うことが望まれる。	
改善状況	
キャリア形成について体系的な教育や情報提供の機会をつくっていく必要があることを確認した。 2023 年入学者を対象に高学年生、卒業生(大学院生)によるキャリア支援レクチャー「医学部の歩き方」を企画した。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンスやプランニングをより積極的に企画していく。2023 年には基礎自主研修での学びについて 4 年生が 1 年生に伝えるプログラムを開始した。 ・メンター制度をより実効的な学生の支援に繋げるため、制度の見直しを検討している。 	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 53 2023 年 5 月 17 日、24 日「医学部+卒後の歩き方」	

4 学生	4.4 学生の参加
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
使命の策定に関する委員会、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価小委員会、カリキュラム評価委員会の構成員に学生を含める形とした。 ・学生の声を教育に反映するため定期的にランチタイムミーティングを開催する仕組みとした。 ・ランチタイムミーティングをきっかけとして学生とフランクに意見交換できる雰囲気が高まっており、フォーカスグループや学生代表を中心に積極的に意見交換を行い、学生の意見をカリキュラム改善に反映させている。具体的な例として、臨床実習の日程を決めるうえで学年代表と協議を行い、春休みを短縮して 6 月に休みを設けることとなった。また、学生の意見から教養の単位取得枠組み変更を行った。 ・臨床実習の体制変更の過程で学生向けにオープンな説明会を実施し意見を聴取した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ランチタイムミーティングは定期的に実施していく方針である。年 2 ターム(一度に 2 学年) ・2023 年には、学生代表など意見の固定化を防ぐため、川澄祭実行委員を対象とした意見効果会を予定している。 	

改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 13 6-19. カリキュラム評価委員会・小委員会委員について(令和4年度第15回教授会資料) ・資料 54-1~54-7 ランチタイムミーティング議事録①~⑦ ・資料 55 2023年2月8日【学生向け説明会】2024年からの新しい臨床実習

5. 教員

5 教員	5.1 募集と選抜方法
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
教員の募集と選抜方針に教育、研究、診療の役割のバランスを含め、教育的業績を求めて、その判定水準を明示すべきである。	
改善状況	
応募提出書類で教育的実績の記載を求めていることを確認した。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・分野のニーズに応じた選抜しており、医学部として役割のバランスや判定水準の基準を設定できていないのが課題と考えている。 ・判断水準と明示方法について検討する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 56 応募書類(教授用) ・資料 57 応募書類(准教授以下用) 	

5 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)エフォート率を含め、教員業績を医学部が組織的に評価し、担当教員にフィードバックする制度を設けるべきである。	
改善状況 / 現状	
<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員に対するフィードバックは、業績評価の際、所属長が全員の評価をした後、希望する教員については申し出により実施している。 ・令和5年度より現在の3病院に加え、2病院を大学病院化したことに伴い、評価者について整理を行った。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> 医学部として組織的な評価について検討する。 ・フィードバックの実績について調査を行う。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 58 【案内】教員業績評価の実施について ・資料 59 教員業績評価記入用フォーマット(桜山) 	

<ul style="list-style-type: none"> ・資料 60 教員業績評価移入用フォーマット(4 病院) ・資料 61 よくあるご質問(FAQ)

領域 5 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するために、FD等の質を充実し、教員の参加度を高めるべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・診療参加型実習を推進するために「臨床実習改善ワーキング」を立ち上げた。2022 年 6 月から月一回ペースで開催した。 ・2022 年 FD 実績 <ul style="list-style-type: none"> ・教員全体 5 回 ・東部・西部各1回 ・社会学会議1回 ・消化器代謝内科、泌尿器科、東部消化器内科 ・教員全体を対象とした FD は動画で後からでも視聴できる形とし Forms でクイズと参加を把握した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き積極的に FD を行っていく。 ・2023 年 4 月から附属病院となったみらい厚生病院、緑市民病院でも FD 実施を予定している。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 62 2022 年 6 月 14 日 第 2 回臨床実習ワーキング議事録 ・資料 63 2023 年 1 月 27 日 第 9 回臨床実習改善ワーキング ・資料 64-1 2022 年 10 月 12 日 FD① ・資料 64-2 2022 年 10 月 12 日 FD② ・資料 44 2022 年 10 月 19日 FD③ ・資料 50 2022 年 10 月 26 日 FD④ ・資料 36 東部医療センターFD 2022 年 11 月 16 日 記録 ・資料 37 西部医療センターFD 2022 年 11 月 25 日 記録 ・資料 24 FD 第 172 回医学教育・社会医学講座教員会議 ・資料 65 FD:事後動画視聴者の管理 	

6.教育資源

6 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
学生が適切な臨床経験を積めるように、各病院の疾患分類を把握し、臨床実習施設を充実すべきである。	

改善状況
改訂モデルコアカリキュラムに合わせて臨床実習統括部門会議を設置することを決定した。各市大は 2022 年に東部医療センター、西部医療センターが附属病院化され、2023 年にはみらい光生病院、みどり市民病院も附属病院となった。新しい臨床実習統括部門には各診療科代表に加えこれらの附属病院からも参加して頂く形で構成することを決定した。
今後の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年4月 17 日には第一回の臨床実習統括部門準備会議を開催した。 ・臨床実習で経験する疾患について実態的かつ継続的な情報収集を行うシステム開発に着手している。「これが経験できるはず」よりも実際に学生の経験につながる教育がなされることを同時に把握し教育改善につなげることが重要と考えており、“学生が経験した”症例を登録するシステムを計画している。
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 66 2023 年 1 月 24 日教授会資料 診療参加型臨床実習を統括する組織 ・資料 67 2023 年 2 月 14 日 3 病院運営会議資料:臨床実習統括部門の設置について

6 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修を促進するために無線LAN環境をさらに充実すべきである。	
改善状況	
医学部として全学教育機構会議に要望を提出し、全学教育機構会議で重要度を勘案して全学について順次整備している。	
今後の計画	
順次無線 LAN 環境整備を行っていく。 附属病院で学生が使用できる無線 LAN 環境整備が重要な課題である。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 68 Wi-Fi 整備状況	

6 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
学生の自己学習を促進するため、学習支援システムの導入が望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年 M6 を対象とした「臨床推論・身体診察トレーニング」を選択講座で導入した。 ・「臨床推論・身体診察トレーニング」と選択制カリキュラムの BRJ 活動で Microsoft Teams による学修管理を導入した。 	
今後の計画	

全学の LMS システム(Live campus)が導入されているが、医学部の教育管理には活用されていないことが課題となっている。Microsoft Teams との選択を含め LMS の活用を積極的にすすめていく。

改善状況を示す根拠資料

・資料 69 M6 臨床推論と身体診察トレーニング 2022 年

6 教育資源	6.5 教育専門家
基本的水準:適合	
改善のための助言	
学内の教育専門家をより積極的に活用し、教育技法および評価方法を開発すべきである。	
改善状況	
2021 年 4 月から医学・医療教育学教授が 2022 年 4 月に着任した。カリキュラム企画・運営委員会等で教育改善の取り組みを進めている。	
今後の計画	
学内に散在する教育に熱量を持った教員の力を活かすため、「医学教育センター」の設置を検討している	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

6 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準:適合	
改善のための助言	
海外への学生派遣をさらに推進すべきである。	
改善状況 / 現状	
3年次の基礎自主研修、5年次の選択制実習の際に協定校との派遣を実施している。コロナ禍の規制のため中断していたが、学生派遣を再開し、希望する学生を積極的に派遣した。	
今後の計画	
推進計画策定のため、実績の推移をまとめる必要がある。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

7.プログラム評価

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(1)カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを実動すべきである。	

改善状況
カリキュラム評価小委員会を立ち上げた。カリキュラム改善に必要なモニタ項目を整理し、定期的に収集できる仕組みの構築に着手した。
今後の計画
2023 年度も定期的なモニタリングを継続する。関連の委員会に情報と課題を提示し IR としての機能を実装する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 70 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会議事録 ・資料 71 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会、資料 タスク整理と分担

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(2)卒業時コンピテンシーを整理・構造化し、学修成果の達成に向かって学生がその能力を段階的に獲得していくことを評価すべきである。	
改善状況	
・前述のように 2022 年はマイルストーンの策定と、学修目標から見た実質的な学修目標との突合作業を行った。 ・令和 4 年改訂モデルコアカリキュラムに適合するためにマイルストーンの改定を行った。	
今後の計画	
カリキュラム評価小委員会を中心にマイルストーンに沿った教育が実践されていることを評価していく。具体的にはシラバス自己点検(前出)を活用し定期的な改善サイクルがすすむシステムを構築する。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 72 【2023 年度版】名市大マイルストーン Ver7.3	

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(3)カリキュラムとその構成要素、学生の進歩、課題の特定の観点からプログラムを評価すべきである。	
改善状況	
カリキュラム評価小員会を立ち上げ、カリキュラム評価の基本的な仕組みを構築した。具体的には、プログラム評価を①学生の評価、②教育プログラム(授業)の評価、③カリキュラム構成の評価、④基礎自主研修の継続的改善、⑤入学試験の評価、⑥カリキュラム評価への参画、⑦臨床実習の評価、に整理し、それぞれに対して評価表、タスク、達成時期、を策定した。	
今後の計画	
2023 年度も定期的なモニタリングを継続する。関連の委員会に情報と課題を提示し IR としての機能を実装する。	

改善状況を示す根拠資料	
・資料 71 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会、資料 タスク整理と分担	

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
(4)評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。	
改善状況	
前述のようにカリキュラム評価の仕組みを構築した。資料に記載があるように「次のステップ」として基本的な上申対象を定め、評価結果がカリキュラム改善に繋がる仕組みとしている。	
今後の計画	
前述のように 2023 年度も定期的なモニタリングを継続する。関連の委員会に情報と課題を提示し IR としての機能を実装する。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 71 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会、資料 タスク整理と分担	

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果について、プログラムを定期的かつ包括的に評価することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・前述のようにカリキュラム評価の仕組みを構築した。 ・長期間で獲得される学修成果について検証するため、指標に「卒業生調査」を加え、タスクとして「卒業生に対する調査」を設定した。2022 年には名古屋市立大学医学部同門会と卒業生調査についての意見交換を行った。 	
今後の計画	
2023 年度中には試験的に卒業生とその指導医に対するアンケート調査を実施する予定である。具体的には附属病院のうち研修医が所属する 3 施設(名古屋市立大学病院、東部医療センター、西部医療センター)にアンケートを送付することを計画している。回答状況などを確認して教育改善につながる情報が得られるように体制を構築していく。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 71 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会、資料 タスク整理と分担	

7 プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
------------------	----------------------------

基本的水準:部分的適合
改善のための助言
学生および教員からのフィードバックを系統的に収集し、分析し、対応すべきである。
改善状況
<ul style="list-style-type: none"> ・「ランチタイムミーティング」を導入した。学生の意見を幅広く得ることができる機会になる。 ・卒業時アンケートでの学生の意見を集約しカリキュラム評価委員会に提出し、ステイクホルダーや外部委員からの意見をカリキュラム企画・運営委員会にフィードバックした。
今後の計画
学生の授業アンケートについて調査を行った。授業についてのアンケートは全学で実施しているが、医学部は回収率が 10%台と著しく低く評価に結びつけにくいことが明らかになった。これは、実施されている授業アンケートを行っている LMS が教養教育向けのもので、専門教育では使用されていないことが一因と思われる。医学部独自の調査方法を計画している。
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 54-1～54-7 ランチタイムミーティング議事録①～⑦ ・資料 73 2023 年 3 月 13 日 カリキュラム評価委員会 資料①-1 卒業予定者アンケート-自己評価グラフ ・資料 74 2023 年 3 月 13 日 .カリキュラム評価委員会議事録

7 プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
系統的にフィードバックを求め、教育プログラムを開発することが望まれる。	
改善状況	
4.4 に記載	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価小委員会、カリキュラム評価委員会の構成員に学生を含める形とした ・学生の声を教育に反映するため定期的にランチタイムミーティングを開催する仕組みとした。 ・ランチタイムミーティングをきっかけとして学生とフランクに意見交換できる雰囲気が高まっており、フォーカスグループや学生代表を中心に積極的に意見交換を行い、学生の意見をカリキュラム改善に反映させている。具体的な例として、臨床実習の日程を決めるうえで学年代表と協議を行い、春休みを短縮して 6 月に休みを設けることとなった。また、学生の意見から教養の単位取得枠組み変更を行った。 ・臨床実習の体制変更の過程で学生向けにオープンな説明会を実施し意見を聴取した。 	
今後の計画	
ランチタイムミーティングはフォーカスグループからの意見を聴取する取り組みとして有効と感じられ、2023 年度も継続している。	
カリキュラム改革ワーキンググループでの方針について全ての基礎医学分野の教授から意見を聴取している。引き続き教員からの意見を聴取する機会も積極的につくっていく	
改善状況を示す根拠資料	

<ul style="list-style-type: none"> ・資料 13 6-19. カリキュラム評価委員会・小委員会委員について(令和 4 年度第 15 回教授会資料) ・資料 54-1～54-7 ランチタイムミーティング議事録①～⑦ ・資料 55 2023 年 2 月 8 日【学生向け説明会】2024 年からの新しい臨床実習

7 プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準:部分的適合	
改善のための助言	
使命と意図した学修成果に関して、医療人育成推進センター教育IR部門が学生・卒業生の実績を継続的により広く集積し、分析すべきである。	
改善状況	
7.1(4)に記載 カリキュラム評価の仕組みを構築した。「次のステップ」として基本的な上申対象を定め、評価結果がカリキュラム改善に繋がる仕組みとしている。	
今後の計画	
2023 年度には附属病院に所属する卒業生を対象として、卒業時アウトカムに関するアンケートを実施する方向性で準備をすすめている	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 71 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会、資料 タスク整理と分担	

7 プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準:部分的適合	
改善のための助言	
学生の実績の分析を使用し、カリキュラム立案について責任ある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム評価小委員会で学生の実績分析の方法について協議を行った。学生の実績を評価する指標の一つとして共用試験 CBT、OSCE、PCC-OSCE の成績を分析し各科目にフィードバックを行っていく方向性である。	
今後の計画	
CBT の成績の分析を開始している。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 71 2022 年 12 月 27 日カリキュラム評価小委員会資料 タスク整理と分担	

7 プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準:部分的適合	

改善のための助言
広い範囲の教育の関係者に、課程およびプログラムの評価結果を積極的に開示し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。
改善状況 / 現状
カリキュラム評価委員会の規定を改訂し構成員の見直しを行った。具体的には、副研究科長、カリキュラム企画・運営委員、学生代表委員会委員のほか、名古屋市健康福祉局参事を含む外部有識者3名と学生2名を含めた。
今後の計画
2023年はさらに名古屋市立大学学長(副理事長)、医学部研究科長、患者団体、を構成員に含む方向性で調整している。
改善状況を示す根拠資料
・資料13 6-19. カリキュラム評価委員会・小委員会委員について(令和4年度第15回教授会資料)

8. 統轄および管理運営

8 統轄および管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準: 適合	
改善のための助言	
統括業務とその決定事項に関して、透明性をより確保することが望まれる。	
改善状況	
特記事項なし	
今後の計画	
医学教育の改善をより組織的にすすめるため「医学教育センター」設置を検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

8 統轄および管理運営	8.3 教育予算と資源配分
基本的水準: 部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム実施の観点から情報通信技術や臨床技能教育関連設備・備品などの教育に必要な資源配分を適切に行うべきである。	
改善状況	
シミュレーションセンターの教育関連設備・備品の管理の適正化のため、保有する設備のリストを作成し、共有フォルダに保管することで、医学部事務、医学・医療教育学で共有できる仕組みを構築した。	
今後の計画	
シミュレーションセンターの備品は、医学部、看護学部、病院、各診療科・分野など様々な財源で購入されるため、全体で備品を管理するシステム構築が次の目標となる。	

改善状況を示す根拠資料

・資料 75 シミュレータ調達案_20221221 更新

領域 9 継続的改良

基本的水準:適合

改善のための助言

医療人育成推進センター教育 IR 部門の機能をさらに充実し、教育プログラム、学修成果を定期的に見直し、課題を明らかにすることで継続的な改良を進めるべきである。

改善状況

前述のようにカリキュラム評価小委員会を設置し、教育の PDCA がすすむ仕組みを構築した。

今後の計画

2023 年 9 月から医療人育成学分野に恒川准教授に着任頂き、IR の実装にむけて体制の強化をはかる。
--

改善状況を示す根拠資料

- | |
|--|
| ・資料 73 2023 年 3 月 13 日 カリキュラム評価委員会 資料①-1
卒業予定者アンケート-自己評価グラフ
・資料 74 2023 年 3 月 13 日 .カリキュラム評価委員会議事録 |
|--|